

33. インターネット社会とこころの健康

| | | |
|-------|----------|------------------|
| 企画者 | 神戸女学院大学 | 島井哲志 |
| 企画者 | お茶の水女子大学 | 坂元章 |
| 司会者 | 神戸女学院大学 | 島井哲志 |
| 司会者 | お茶の水女子大学 | 坂元章 |
| 話題提供者 | 神戸女学院大学 | 島井哲志 |
| 話題提供者 | お茶の水女子大学 | 安藤玲子 |
| 話題提供者 | お茶の水女子大学 | 坂元章 |
| 話題提供者 | 東京学芸大学 | 田村毅 [#] |
| 指定討論者 | 横浜市立大学 | 川浦康至 |

要旨

インターネットは、わが国に急速に浸透しつつある。「インターネット白書」によれば、日本のインターネット利用者は99年2月において1,508万4,600人である。また、利用実態をみると、自宅からの利用者数の伸び率が前年度105.6%から151.5%と大幅に伸長しており、家庭からのインターネット利用者数が、勤務先/学校からの利用者数を上回る結果となっている。この変化に伴って、数年前から、インターネットを利用することが、社会生活、ひいては、「こころの健康」によくない影響を与えるのではないかという懸念が表明されている。ここでは、インターネット社会の現状を踏まえて、このような議論に確かな根拠があるのかを実証的な研究から討議し、同時に、逆に、インターネットを利用することによる交流からこころの健康の回復をはかることができるのかという可能性についても考えていきたい。